

令和2年度 第1回安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和2年6月26日(金)午前10時～11時30分	
場 所	安城市役所本庁舎災害対策本部室	
出席者	委 員	稲垣会長、平岩副会長、飯尾委員、浅田委員、板倉委員、岩井委員、神谷委員、棚橋委員、中尾委員、野村委員、久恒委員、前田委員、大野委員、都築委員 14名
	事務局	産業環境部長、産業環境部次長、環境都市推進課長、環境都市推進課課長補佐、環境都市推進課環境衛生係長、環境都市推進課職員
次 第	1 会長あいさつ 2 産業環境部長あいさつ 3 議 題 (1) 第2次安城市環境基本計画の基本施策について (2) 第2次安城市環境基本計画の進捗管理方法について 4 今後のスケジュール 5 その他	
資 料	資料1. 第2次安城市環境基本計画基本施策等説明資料 資料2. 計画体系図(案) 資料3. 計画骨子(SDGs反映)カラー版 資料4. 令和元年度安城市環境報告書に記載のある環境事業の一部抜粋	

1 会長あいさつ

2 産業環境部長あいさつ

3 議 題

(1) 第2次安城市環境基本計画の基本施策について

<説明事項>

【事務局】

(資料1、資料2、資料3)

- ・ 計画策定状況
- ・ 計画骨子
- ・ 計画体系
- ・ 各柱の基本施策
- ・ SDG s

<報告に関する質問・意見>

【大野委員】

資料2の指標について、具体的な数値を入れていない理由はなぜか。

【事務局】

理想を言うなら「ごみ排出量ゼロ」などと書けるが、10年計画の中で、数的な根拠を作ることが難しいことから、曖昧にはなるが、「減らす」や「増やす」という表現で目標設定をしたい。議題(2)でも説明するが、今後、審議会で意見をもらいなが

ら、個別事業をまとめた「アクションプラン」を推進する。アクションプランは毎年度更新する予定であり、時代背景などで力を入れるべき事業は、そちらで強化していく。

【大野委員】

計画の中に、計画本編とは別で、「アクションプランを推進する」という文言は入るか。

【事務局】

入れるようにする。

【神谷委員】

具体的に一人一人が取り組んでいくことが大切となる。水は世界的に不足するといわれており、水源の森を保全することが重要であるが、そのあたりのことが触れられていない。第8次総合計画では、水源の森づくりについて記載がある。森があることで二酸化炭素は吸収され、生態系は保全される。総合計画と同様、環境基本計画にもうたえないか。

【事務局】

矢作川水源の森が大切だということは十分認識している。受ける水がきれいで、受けた水をきちんとしたかたちで排水していけるように、安城市だけが自然を保つのではなく、広域な視点も含めた水の保全に取り組んでいきたい。ただ、基本計画では大きな表現としたいため、「水源の森」については直接記載せず、「水環境を良くする」という施策でまとめさせていただきたい。

【久恒委員】

資料2の自然・都市共生の指標に「都市公園の面積を増やす」とあったが、今後の予定はどうなっているか。

【稲垣会長】

公園は着々と増えており、近いうちに古井町に街区公園ができると聞いているが、北部地区にも公園を作る計画が欲しい。

【事務局】

都市公園は、公園緑地課が所管している。会長が言われたように、増やす方向性はあるが、具体的にどこに作るかは、現時点で確定はしていないと思う。

【浅田委員】

環境に関する個人的な意見・感想として、市民一人一人に、やらないといけないという意識を持ってもらうことが大切である。アダプトプログラムは、毎年マンネリ化してくる。歩道に草が多く、運転していると見にくい。フラワーロードに花が咲いていない花壇が多く、恥ずかしいという声が出ている。最近話題になっているレジ袋有料化についても触れたい。エコバッグは洗う人が少なく、汚い。エコバッグの扱いにも触れていけないと感じた。

【事務局】

そうした具体的な取り組みについては、様々な部署に分かれるため、一つ一つ連携を図りながら考えていきたい。マンネリ化と言われたように、「今やっていること」が目標とならないようにしたい。

【稲垣会長】

歩道の草は、学校からも要望がある。県道は県に電話したり、町内会で動いたりし

ている。

【都築委員】

安城市は水環境がよい。堀内川が流れており、桜の時期は綺麗だ。川をどのように認識してよいのか分からないというのが実感としてある。水は大切だということをアピールする方法はないだろうか。また、畑仕事をしている中で、虫について気になる。カメムシや外来種の種類が増えている。植物が増えると、虫も共生して増えていく。どのように共生すればよいか迷っている。バランスの取れたまちのイメージが難しい。計画は必要であるが、整備していく作業も必要。

【事務局】

自然・都市共生の部分は、事務局も悩んでいる。安城市がどんな都市になりたいのかによる。例えば、新宿みたいな大都市になりたいのと、根羽村みたいな自然豊かなまちになりたいのとでは、「自然」の規模が全然違う。環境基本計画の中で位置づけられるものではなく、総合計画等、上位計画で位置づけるもの。「人間が安城市に住み続けるため」というのを根本とし、そのうえで農地や水辺地をどのように大切にするかを考えていきたい。

【岩井委員】

「廃棄物を減らす」という点について市民の方が対象になっているが、企業としては、産業廃棄物は市外で処理しているのが現状で、市内で処理できるように要望している。廃棄物を燃やす際の熱エネルギーを、工業用地や、地域の商業・家庭に供給できるようにしてもらえるとよい。産業界にも目を向けた計画にしてほしい。

【事務局】

「廃棄物」の中には、家庭ごみだけでなく、事業ごみも含まれる。今回策定する10年計画に「産業廃棄物処理施設を作る」というのは書きづらいが、処理施設のあり方やエネルギーの利用については、考えていく必要があると認識している。

【中尾委員】

現状数値の確認だが、1人1日あたりのごみ排出量は減っているのか。また地球温暖化に関して、温室効果ガス排出量は、市での排出量を算出しているのか。

【事務局】

2014年は953g、2015年は954g、2016年は938g、2017年は917g、2018年は915gで推移しているが、コロナによる影響で、今年は増加傾向にあると聞いている。

温室効果ガス排出量は、最近まではエネルギー量の把握ができたため、市独自で数値を出せたが、データの把握が難しくなってきたため、今後は環境省が公表している全国按分の数値を使うことになる。

【神谷委員】

日本の建築について、建築家の隈研吾さんが話していたところによると、今後はもっと自然との関係を考えた家を作ることが大切とのこと。例えば、空気が通るようにしてある京都の町屋が参考になる。町全体をスマートシティ化することは、計画に入れていかないか。

【事務局】

スマートシティは環境基本計画のレベルを超えてしまう。安城市がスマートシティ化に取り組むのであれば、総合計画等で位置づけることになると考えられる。

【前田委員】

資源循環の柱について、ごみ排出量の削減、プラスチックごみの削減、食品ロスの削減は、取り組むべき。食品ロスの削減はSDGsにも該当し、市民一人一人の取り組みが必要となる。国・県でも今後しっかり取り組んでいくため、市としてもどのように取り組むのか考えてもよいのではないか。話題性をもって、より発信力のあるものにできるとよい。

【事務局】

プラスチックごみや食品ロスの削減は、「ごみの発生を抑制する」の施策に含まれていると考えている。市民にどのようにPRしていくか手法を考えて、施策を進めていく。

【野村委員】

環境学習について、子どもたち向けには実施しやすいが、働く世代（環境には疎い世代）向けには行っているか。またそういった活動は考えられているのか。

【事務局】

柿田公園管理事務所「エコきち」での講座や、エコネットあんじょうの講座は、子ども向けもあるが、大人向けもある。10月には市の事業で、親子で参加できるものを企画している。しかし、せっかくの休みの土日に参加する人は少ないかもしれない。そのため、企業研修の一部として受けてもらえるような体制を提案するなど、企業とも連携していきたい。例えば、過去に行っていた、ごみ減量20%事業の際は、企業に出向いて研修を行ったことがある。

【板倉委員】

自分の住まいは安城市ではなく、そこと比べると、安城市は、自然が豊かで、街もあり、バランスが取れていると感じる。例えば、安城市のありたい姿を、市民がイメージしやすい映像にしてはどうか。安城市が今持っているものを生かすとよいのでは。

SDGsのカードゲームがあり、自分の暮らしと環境を紐づける良いものだと感じる。学校だけでなく企業でも、遊びとしてなら自然に取り入れることができるのではないだろうか。

【事務局】

SDGsのカードゲームは我々も行ったことがある。環境分野だけではないため、市としてPRできればと思う。また、映像を作るという発想はなかった。取り組みの中の手段として検討していく。

【平岩副会長】

農業従事者としては、農地を維持保全する計画はありがたい。他の計画には、例えば2018年度策定の都市計画マスタープランの「北部地区をベッドタウン化する」といった、農地を守る立場の人が、やる気がなくなるようなものがある。農地を守ることを環境基本計画の中に入れていくことで、農地を守る立場の人の意見も反映できる。

【事務局】

第2次計画を作るにあたり、農務課とも都市計画課とも協議をしており、それぞれの計画の進め方についても調整していきたい。

(2) 第2次安城市環境基本計画の進捗管理方法について

<説明事項>

【事務局】

(資料4)

- ・アクションプランによる推進

<説明に関する質問・意見>

【久恒委員】

未使用となった浄化槽を雨水貯留槽として利用している住宅があったりするが、市の施設では雨水を有効活用しているか。また、今後その予定はあるか。

【事務局】

市の施設では、浄化槽を雨水貯留槽としている施設はないと思う。公園に雨水貯留槽を整備しているところはある。

【大野委員】

資料4について、新しい取り組みは何かないか。

【事務局】

資料4は全て平成30年度末時点で実施中のものであり、第2次計画の基本施策では、どこに当てはまるかイメージとして添付している。これらの事業は参考としての一部であり、全てではない。

【大野委員】

アクションプランは印刷せずにWEBサイトで公開するということだが、エコにはつながるかと思うが、WEBサイトは興味のある人しか見ないので、もっとPRできる手段を考えてほしい。

【事務局】

広報に掲載するなど、効果的なPRの手段を検討したい。

【飯尾委員】

世間は確かにSDGsを取り上げているが、あまりSDGsに振り回されすぎることなく、安城市らしさを大切にして計画を組み立てた方がいいと思う。今回様々な立場の人からこれだけの意見が出ているわけだから、うまくすくい上げてもらい、施策に反映させてほしい。

4 今後のスケジュール

【事務局】

令和2年10月～11月に開催予定の令和2年度第2回環境審議会では、パブリックコメントに出すための案をご審議いただきたいと考えております。12月～1月でパブリックコメントを行い、意見を吟味したうえで、令和3年2月の審議会で計画策定の答申をお願いしたいと思います。

5 その他

【事務局】

本日お話しさせていただいた内容について、何かありましたら7月中旬くらいを目途にご連絡いただくとありがたいです。(以上)